

6) 生活場所

今回の調査では、各患者の“生活場所”が以下の4つの選択肢を用いて調査された。

A：患者自宅での在宅療養（外来通院透析、在宅CAPD、在宅血液透析）

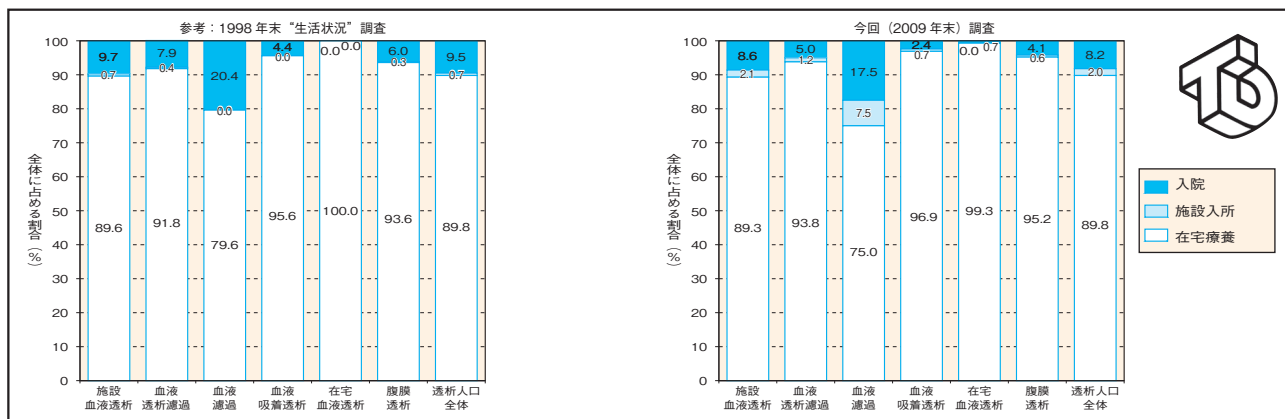
B：施設入所（ケア付き住宅、有料老人ホームや養護老人ホームなどの老人ホーム群、グループホーム、授産施設、救護施設、など）

C：入院（一般病床の他、老人保健施設、療養病床群、リハビリ病床、精神病床、感染症病床、結核病床、など）

Z：不明、分類不能

生活場所については、1998年末実施の本調査でも既に一度調査されている（“生活状況”，文献）。

(1) 治療方法と生活場所 (図表59)



生活場所 治療方法別 (1998年末透析人口)

治療方法	在宅療養 ¹⁾	施設入所 ²⁾	入院 ³⁾	合計
施設血液透析	112,139 (89.6)	893 (0.7)	12,190 (9.7)	125,222 (100.0)
血液透析濾過	4,088 (91.8)	17 (0.4)	350 (7.9)	4,455 (100.0)
血液濾過	90 (79.6)	0	23 (20.4)	113 (100.0)
血液吸着透析	108 (95.6)	0	5 (4.4)	113 (100.0)
在宅血液透析	64 (100.0)	0	0 (0.0)	64 (100.0)
腹膜透析 ⁴⁾	4,241 (93.6)	15 (0.3)	274 (6.0)	4,530 (100.0)
合計	120,730 (89.8)	925 (0.7)	12,842 (9.5)	134,497 (100.0)

1) “自宅 (同居)”、“自宅 (独居)”を合算

2) “内部障害者更生施設”、“用語施設”、“授産施設”、“福祉ホーム”、“養護老人ホーム”、“軽費老人ホームA型”、“軽費老人ホームB型”、“ケアハウス”、“特別養護老人ホーム”、“有料老人ホーム”、“老人健康保険施設”、“救護施設”、“その他”を合算

3) “入院 (一般病床)”、“入院 (老人療養病床)”を合算

4) “CAPD”と“IPD”を合算

生活場所 治療方法別 (透析患者全体)

治療方法	在宅療養	施設入所	入院	合計	不明	記載なし	総計
施設血液透析	184,594 (89.3)	4,261 (2.1)	17,809 (8.6)	206,664 (100.0)	1,350	44,037	252,051
血液透析濾過	13,063 (93.8)	167 (1.2)	696 (5.0)	13,926 (100.0)	51	2,864	16,841
血液濾過	30 (75.0)	3 (7.5)	7 (17.5)	40 (100.0)	1	122	163
血液吸着透析	1,473 (96.9)	11 (0.7)	36 (2.4)	1,520 (100.0)	16	242	1,778
在宅血液透析	144 (99.3)	0	1 (0.7)	145 (100.0)	0	72	217
腹膜透析	5,587 (95.2)	37 (0.6)	242 (4.1)	5,866 (100.0)	91	3,114	9,071
合計	204,891 (89.8)	4,479 (2.0)	18,791 (8.2)	228,161 (100.0)	1,509	50,451	280,121

患者調査による集計

解説

参考までに1998年末調査結果 (文献) と今回 (2009年末) 調査結果を併記した。透析人口全体では、2009年末は1998年末に比べて入院患者は少なくなっているが (9.5%→8.2%)、施設入所患者は増大している (0.7%→2.0%)。この結果、在宅療養患者は兩年とも同じ割合になっている (89.8%→89.8%)。以上の所見は、11年前であれば入院適応となっていた患者の一部が現在は各種施設に入所するようになったことを示唆している。

治療方法別では、血液濾過を施行されている患者で入院患者や入所患者が最も多く、在宅血液透析を施行されている患者で入院患者や入所患者が最も少ない。1998年末と2009年末の間で治療方法別の傾向はほぼ同等であった。

参考文献

わが国の慢性透析療法の現況 (1998年12月31日現在) . 日本透析医学会. 名古屋, 1999.